

令和3年度 ともそだち



4月28日（金）に、講師の方による「大崎上島学」民話語り聞かせを行いました。今回のお話は、大崎上島町明石地区に伝わる「地獄谷」のお話でした。語り聞かせに、聞き入った子供たち！自分たちの住むふるさと大崎上島の民話にふれ、町に鬼が住んでいたことに驚いたり、お話の内容にたくさんの疑問を感じたりしたようでした。



【草木のじごく谷の鬼】

大崎上島町 ふるさとの伝承より

昔、むかし、明石のお百姓さんが、草木の山深い谷間の畠で仕事をしていて、おそくなり、気がついてみると陽は権限山の峯に沈みかけていました。

お百姓さんはあわてて、仕事をしまい日暮れて牛を追いながらいそいで家路につきました。

気のせくまま、急ぎ足で歩いていたところ急に牛が動かなくなったので、どうしたことかとひょっと、うしろをふり向くと、大きな赤鬼が真っ赤な口を開き、毛むくじらの手をのばして、いまにもつかみかからんばかりでした。

お百姓さんはびっくりして、かっついていたくわも牛の手綱もほおりだしていちもくさんに逃げました。そして、「弁財天」様を祀るお社までたどりつき、お助け下さいとお願いをしました。

鬼はドスン・ドスンと大きな足音をたてながら追ってきましたが、弁財天様のお社が見えると、あきらめて山に帰りました。

お百姓さんは、弁財天様のおかげで命拾いましたのです。

その後、村人は鬼が出た谷を「じごく谷」弁財天様をおまつりしていたお社の場所を「べんざい」と呼ぶようになり、今に伝わっています。

～ お話を聞く様子 ～



講師の方のお話に聞き入る子供たち！鬼がお爺さんと牛のべえこを追いかけてきたシーンにはドキドキしたようです。

～お話の振り返り1～

「鬼がどうしておじいさんを追いかけたのか知りたいです。」

年長組

「何鬼だったのかな？赤？それとも青？」

年長組



「鬼の高さ（背）はどのくらいだったのかな？」

年中組

「鬼はどうして止まったのかなと思いました。」

年中組

お話を聞いて鬼の大きさや体の色に興味をもった子供がたくさんいました。

～振り返りで出た疑問について考えよう！～

「鬼はどうしておじいさんと、ベえこ（牛）を追いかけたの？」「どうして鬼は途中で止まったのか？」みんなで考えてみました。



A児：「鬼さんは、おじいさんと仲間になりたかったと思いました。」

B児：「仲間の鬼と間違えたのかな？」

C児：「おじいさんが鬼かと思って追いかけたけど、角がなかったから帰りました。」

D児：「おいしそうだったから追いかけた。」

E児：「鬼は一人だったから、友達になりたくて追いかけたけど、おじいさんとベえこだったから帰ったと思います。」



草木のじごく谷